

[書評]

ホームページへの書評不掲載の事情

日本ハーディ協会会長 金子 幸男

日本ハーディ協会会員の皆様に昨年度本学会誌に掲載された書評についてご報告があります。

2022年9月刊行の『ハーディ研究』第48号（活字版）には、武田美保子氏（非協会員）によるご著書『身体と感情を読むイギリス小説』（春風社、2018年）について、会員執筆の書評が掲載されました。しかし、刊行後の編集委員会で、この書評には問題があり掲載は妥当ではないとする声があがり、掲載経過とその問題点、改善策が話し合われました。その後、10月末に開催の役員会にこの問題が上程され、議論の末、ホームページ掲載予定（2023年10月）の学会誌第48号に、この書評は不掲載とするという結論を得ました。出席した役員は当該書評が著者に対する敬意を欠いているという点で意見が一致し、また議論が粗雑であるという見解も共有されました。なお活字になった書評のホームページ掲載の可否は協会の権限となっております。

ここで本協会における、書評掲載に至る過程をご説明します。編集委員会（会長を含む）で書評本を選定後、書評者を推薦し、委員長より執筆を依頼します。書評は依頼ですので査読は行いません。形式と内容については書評者が責任を負い、編集委員長と会長が事実誤認や誹謗中傷の有無をチェックします。この二者による話し合いの後、最終的な掲載決定は会長が行います。

今回の書評については、現会長である金子と、当時の編集委員長の新妻昭彦氏が話し合い、明確な誹謗中傷の言葉や事実誤認は確認できませんでした。また標準的な型から離れたこの野心的な書評は、残念ながら対象本の理解を深めず、ときに持論の展開を中心におき、高い評価を与えることはできませんでした。しかし、これが執筆者の意図的なスタイルであろうと好意的に解

釈しました。そして何よりも依頼原稿である書評は執筆者に形式、内容とも一任するという暗黙の申し合わせがあり、難しい判断ではありましたが、会長である私が最終的に掲載を許可した次第です。以上が、当該書評が学会誌に掲載されるに至った経緯です。

この書評の掲載により、武田美保子先生のご著書の正当な理解と評価を阻んでしまった可能性があることを危惧しております。また日本ハーディ協会会員の皆様には望ましい書評の姿について誤解を与えたかもしれません。掲載責任者である会長として今回の件を重く受け止め、学会誌編集委員会とも協力して再発防止策を講じるつもりです。ただ判断の難しい書評は編集委員全員が読むという程度の改善策はすでに決めました。協会員の皆様の活発な議論の場として、より質の高い学会誌を目ざし、会長、編集委員ともども尽力して参ります。皆様方のご協力を引き続きお願いいたします。

2023年8月5日